

幼児の母



昭和十六年

十月

臨戦家庭の幼児

時局下といつたおほまかな言葉では足りない、臨戦でさへも氣もちを盡さないといふ此頃です。その切迫は國としてのことであり、その緊張は國民としてのことですけれども、その實際が、子どもの日常にひし／＼と感じられるのは家庭です。物資の不足は、親の心づくしから、そう直接に感じさせられないとしても、お父さんが忙しい。お母さんが忙しい。よくは分らないけれども、ラジオに、新聞に、家中の人の顔が引きしまり、話が嚴かになる。その、たゞならぬ重大な事態は、子ども心にも感じられずにあません。

但し、親は幼児達に向つては、兄や姉に向つて語るやうな時局の語り方はしないでせう。寧ろ、いつものやうな明るさで楽しさとの生活にのびやかに置いてやらうと考へるでせう。ひたすら護られてゐるべき彼等は、斯ういふ時にこそ最もよく護られてゐることが必要だからです。自分に節しても子に豊かにし、心には憂へても我子には笑顔を忘れないのが親心だからです。常よりも健かに成育して、常よりも大切な國の將來を擔つて貰はなければならぬ彼等だからです。それにしても、この臨戦下に、我家の屋上に敵の飛行機のうなり一つ聞かない我國は有り難いことです。

幼稚園から

○幼稚園はお子さんの發達を楽しく助けるどころですが、ツヨイコに鍛鍊してゆくことも、大切な任務です。その鍛鍊は心と身とを一つにしての鍛鍊ですが、なんといつても、からだの鍛鍊が先づ注意せらるべきで、今こそ其の一番いゝ季節です。

○ぐん／＼馳けさせます。力のはいつた遊びをさせます。折角く着せていらつした上着をぬがせて、日光下で運動もさせます。氣の弱い、あまいお母さんが御覽になつたら、もつとお手やわらかにと言はれるかも知れません。勿論、幼児期の發達に無理なことはしません。

○ところで、一方かういふ鍛鍊をします時に、大切なのは榮養と夜の熟睡です。そして、これは、幼稚園では出来ない家庭のお役目です。物資不足の時ですが、しつかりお願ひしますよ。